

第 4 回府中市福祉のまちづくり推進審議会の会議録（案） 修正箇所一覧

（下線の箇所を修正しています。）

ページ	5 ページ
行	3 行目～22 行目
修正前	<p><u>そのページの最後の段落、「本市には、地域に根差し、住民に身近な文化センターが」というところで、「各文化センター圏域では、地縁のコミュニティや「わがまち支えあい協議会」等の多様な地域資源が」という記載があります。「わがまち支えあい協議会」について、何となく活動のなかにあったという感じで取られたので、現行の計画期間中に最初のわがまち支えあい協議会が発足して、現在進行形で、どんどん新たな会が発足しているという感じを文章に込めたいと思ったのですが、よく読んでみると、「進められています」という進行形で書かれているので、とても良いと思います。</u></p> <p><u>次期計画では、地域福祉コーディネーターの役割というのがすごく重要で、また担う役割も大きくなってきているということを感じています。いま私は社会福祉協議会の地域福祉活動計画の策定も同時に行っています。現行の計画でも、最初3名というところから、最終的には11名のところまで達成していただき、本当にありがたいと思っています。それでも今、府中市は困りごと相談会のような個人支援と、わがまち支えあい協議会の立ち上げ支援のような地域支援と、地域福祉コーディネーターがいるような役割を兼務しながら両方同時に行っています。先ほども言いましたが、「両方同時にはすごく大変だけれども、府中市はやる気だ。すごい。」と言われたことがあります。しかし現実はずごく頑張っているところです。</u></p> <p><u>希望としては、ぜひエリアごとの地域福祉コーディネーターの複数配置ということを明確に計画に載せていただけたらいいと思っています。社会福祉協議会の計画には、各圏域に、地域福祉コーディネーター2名というのを載せる予定になっています。更に将来的な希望では、小学校校区に正規の地域福祉コーディネーターを1名ずつ配置することを目標としたいとしています。ぜひ市もそのことを後押しするような計画にさせていただけたらいいと思って、お願いします。</u></p>
修正後	<p><u>次期計画では、地域福祉コーディネーターの役割がとても重要で、また担う役割も大きくなっていると感じます。</u></p> <p><u>今、私は、社会福祉協議会の地域福祉活動計画の策定にも関わらせていただいています。現行の計画において当初は地域福祉コーディネーター3名の配置から11名まで増やしていただけたことは、とてもよかったと思います。それでも今、府中の地域福祉コーディネーターは「困りごと相談会」のような個別支援と各エリアの「わがまち支えあい協議会の立ち上げ支援」のような地域支援の両方をいろいろな役割を兼務しながら頑張っている。</u></p> <p><u>希望としては、ぜひエリアごとに地域福祉コーディネーター複数配置ということを次期計画に明記していただけたらいいなと思っ</u></p>

	ています。
--	-------

ページ	1 2 ページ
行	2 1 行目～2 3 行目
修正前	どのように啓発されていくのでしょうか。どうしても学校は学校だけとなり、縦割り行政の問題が、政府でも言われていますが、 <u>そこのつながりが読み取れないのです。</u> 学校の先生が
修正後	どのように啓発されていくのでしょうか。どうしても学校は学校だけの動きになります。政府でも言われていますが、 <u>縦割り行政の問題が打開できるようなつながりが文面から読み取れないのです。</u> 学校の先生が

ページ	15 ページ、16 ページ
行	15 ページ 22 行目～38 行目、16 ページ 1 行目～2 行目
修正前	<p>社会福祉協議会の活動計画も私が以前は、やはりこの文章がぼっと並んで、硬い計画書でした。「これは一体誰に向けてつくっているのですか。もしかしてこれは倉庫に眠っていませんか。」と聞きました。</p> <p>計画書をつくるための計画になってしまって、誰かが手に取って、見て、何かに生かすということが考えられていたのかもしれませんが、私には感じられませんでした。今の第3次の計画のときから、活動をしたいと思う人が手に取って、それを見ながら、では自分は何ができるかと参考になるような計画書にしようと、きちんと手に取った人が書き込めるような形でつくっています。第4次についても、活動しようと思った人が、手に取ったときに参考になって、その計画書の中で、自分は何ができるかということイメージしやすいような活動計画書をつくるということで、視点を変えてつくっていました。</p> <p>こういう計画書に書いてある文言を、一体どれだけの市民が知っているのかということは、本当に私も疑問に思っています。横倉先生がおっしゃったように、せっかくみんなが一生懸命考えたのだから、できるだけ市民の方に広く受け入れてもらいたいとか、見てもらえる形を工夫したほうがいいのではないかと思います。</p> <p>活動計画は、特に市民活動に直結していたので、手引書みたいにみんなが持って歩けるようにということを念頭に置いて作りしました。市の計画だから、ある程度硬いのは仕方がないにしても、先ほどの子どもに向けたものにしても、ダイジェスト版にしても、ただこれを簡単にするのではなくて、誰に向けて発信するのかということ少し考えながらつくっていくという視点があってもいいのかなというのは思います。参考になるかどうか分かりませんが、以上です。</p>
修正後	<p>社会福祉協議会の活動計画も以前は、文章が並んだ硬いイメージのものでした。計画書をつくるための計画になってしまって、誰かが手に取って、見て、何かに活かすということが考えられていたのかもしれませんが、私にはあまり感じられませんでした。</p> <p>現行の第3次地域福祉計画活動計画からは、活動をしたいと思う人が手に取って、それを見ながら、自分は何ができるかと参考にできる計画書にしようという思いで作りました。</p> <p>次期計画についても、同じように手に取った人が参考にできるような活動計画書にするように努めています。</p> <p>市の福祉計画についても、一体どれだけの市民が知っているのか？ということは、本当に私も思っています。横倉副会長がおっしゃったように、せっかくみんなが一所懸命に考えたのだから、できるだけ多くの市民の方々に見てもらえる工夫をした方がいいのではないかと思います。</p>

先ほどの子供版やダイジェスト版にしても、ただこれを簡単にまとめるだけでなく、誰に向けて発信するのかを考えてつくるという視点があってもいいのかなと思います。以上です。